

E36 川柳コンペ

H26 弥彦同級会編

< 全104句のうち事務局で、最大一人3句までに絞りました。 >

| 番号 | ついに狂歌も仲間入り…しました。一人一賞としましょう。 | 作者 | 寸評 (評者の身勝手な寸評です、作者の意図と違うかも・・・) |
|------|--|-------|--|
| 最優秀賞 | 生甲斐を 無くし生きるも 生きる義務 | 小幡隆男 | これは深刻。義務と考える残り人生は辛いもの…でしょうね。 |
| 佳作 | 仕分けされ 後期高齢 次ぎ末期 | 結城忠章 | 高齢者(65<), 後期高齢者(75<), 末期高齢者?(85<)でしょうかね。 |
| 佳作 | 週二日 計画だけの 休肝日 | 石黒泰男 | カミさんの顔色伺い、今日は特別いい事あったから、などと言い訳しながら…。 |
| 佳作 | 人の名を 思い起こすに 四苦八苦 | 長谷川進 | え〜と、ほらあの時の〜。言えそうで言えない、この焦りと苦しみ、いつものことです。 |
| 1 | 達者でな 次回(つぎ)も次々会(つぎ)もと 頑張ろう | 大嶋 實 | 次の同級会を目指して、健康維持に邁進しましょう。 |
| 2 | ご自慢は 爺婆なるも 田舎者 | 川村吾一 | 田舎もんでいたほうが肩も凝らずに得をしますね〜。「知足」ってやつかな。 |
| 3 | 孝行は 親にできずに 妻にする | 小宮山久治 | 最近、諦観・感謝入り雑じり”ハイハイ”と言ってることが最善と、悟りの境地。 |
| 4 | 酒を飲む 薬と言って 今日飲む | 櫻井 明 | 酒は百薬の長とやら、呑んべいには大切な先人訓。 |
| 5 | 短身の コンプレックス 過去の事 | 川村吾一 | 年齢に比例して背が伸びると思っていたが、最近縮みかげんなんだよな。 |
| 6 | エアコンの リモコン探す徘徊で 夜通し汗かくボケ親父 | 廣井 均 | これもあれも、全てが猛暑のせいだ。と思いたいところだが…。 |
| 7 | 同級生(友)である 奇跡に思い馳せ 今集う | 新井誠司 | 入学試験の当落での組み合わせ、あれからもう半世紀以上の付き合いだね。 |
| 8 | さりげなく 友の黒髪 確かめる | 櫻井 明 | 「あいつよりも俺のほうが10本は多いな」(50歩百歩の安心感) |
| 9 | 呑んで寝て 数えて待つは 弥彦山 | 星 富夫 | 遠足前夜の小学生のごとく。いいですね〜。 |
| 10 | 友の貌(かお) 昔も今も 変わりなし | 小幡隆男 | 待ち合わせ。通り過ぎて「もしかして?」「あ〜やっぱり」。 |
| 11 | 返信の 筆跡見つめて 蘇る 笑顔の友に 想いは巡る | 高山絃一 | 句のとおり。着信の度、懐かしいあの頃が脳裏に浮かんでくる。幹事冥利の役得か。 |
| 12 | お酒飲み おけさ歌って 喜寿を待つ | 廣井 均 | 弥彦同級会のあとは多分「喜寿同級会」? その時、全員の参加を祈りたい。。 |
| 13 | 今日もまた メガネと入れ歯が かくれんぼ | 平賀芳三 | 昔のことは覚えていても、昨日や”さっき”のことはつい忘れ。 |
| 14 | ふるさとへ 寄付したお礼が 花火券 | 帆刈明夫 | 最近の長岡花火はやけに有料席が増えましたなア〜。 |
| 15 | 吟行(ぎんこう)の つもりで出たのに 徘徊と? | 勝沼正敬 | 川柳を詠もうと思って、ふらり、かみさん曰く「徘徊ですか?」 |
| 16 | これからは 生きる人生 感性で | 川村吾一 | そうだね、くよくよ考えずに、思ったままの生き方が肩が凝らずにいい…。 |
| 17 | 「同じ釜」など及ばぬワイ、「早弁メン」の旨さよ、あ々なつかしきかなE36のあの頃 | 佐々木菊夫 | いろんなおかずが満載の弁当を引き合いにした意味深の秀作。 |
| 19 | 猫往って 旅立つ準備 一つ終え | 櫻井 明 | これまでは力ずくでできた人生も、しがらみを一つ一つ片付けてゆかないと。 |
| 20 | ハイウエー 虹のトンネル 追いかけて | 新井誠司 | ハンドルの向こうに虹が。近づくようで、逃げてゆく。 |
| 21 | 来ぬ来れぬ 来れる幸せ また一杯 | 大嶋 實 | そうなんです、出たいが出れない身の回り。古希を過ぎ、そんな事情がかくれんぼしている。 |
| 22 | 怖い電(ひょう) 収穫直前 壊滅に | 今井幸夫 | 異常気象と言いつつも、それが定着しつつあるこの頃ですかね。 |
| 23 | 弥彦の湯 川柳できなきゃ 入られぬ | 阪西保 | そうですね、秀作には貸切風呂でも…。 |

| 番号 | ついに狂歌も仲間入り…しました。一人一賞としましょう。 | 作者 | 寸評 (評者の身勝手な寸評です、作者の意図と違うかも・・・) |
|----|------------------------------|-------|--|
| 24 | 山登り 温泉・ビール 同級会 今の楽しみ たったこれだけ | 勝沼正敬 | 今日現在、これだけあれば十分でしょう。欲張らず「知足」も大切では？ |
| 25 | 飲みながら 作った川柳 どこ行った | 阪西保 | 飲んでいて、フト思いつく川柳が、書こうとすると～。 |
| 26 | 投句した これでみのやの 入場券 | 平賀芳三 | そうです。秀作川柳は同級会の記憶に残ります。 |
| 27 | 川柳が できないままに 鼻いびき | 阪西保 | 川柳を考えている間に、つい、ウトウトと舟を漕ぐ。 |
| 28 | よそ行きも 顔がなければ よく似合い | 平賀芳三 | 顔のしわ、歩く姿勢に後ろ髪、いろいろありますが気にしない、気にしない。 |
| 29 | やひこ路に 集い来たるは エレキ連 | 保科尠 | 若き頃エレキテルなど学びしが、今はメガネや入れ歯とかくれんぼ。 |
| 30 | 歳古れば 丸くなるよに 角を立て | 丸山功 | 尖った言葉をカバーする、位相を変えた角言葉を選ぶ？気を遣いますなあ。 |
| 31 | 病院に 10日(どうか)来ないと 死亡説 | 杉本樞夫 | 病院は熟年者のコミュニティ、この歳になっても他人の不幸は蜜の味。 |
| 33 | 病気がしら あの人来ないと 待合室 | 丸山功 | 〇〇さん見ないわネェ～、もしかして症状が悪化して…。待合室の会話。 |
| 34 | まとめ方 みんなどうする 最終章 | 結城忠章 | 特にハイポテンシャルな行動家が多いこのクラス、さて、誰が最終章を締めるのか。 |
| 35 | リハビリに 3日(みっか)来ないと 重病説 | 杉本樞夫 | 今日の用は通院、待合室の話題は常連同士の症状比較、ほっと胸をなでおろす。 |
| 36 | 平成に 昭和が集う 弥彦の湯 | 結城忠章 | 昭和も遠くになりました。でも弥彦の湯では昭和の話が花盛り、満開！ |
| 36 | 後期保険 しっかり取るよ 年金で | 丸山功 | 保険の構造も”老老”が基本のようで。 |
| 38 | 老年に 席ゆずられて 老いを知る | 佐藤武 | そうか、自分の目から見れば似たようなもんだと思うのだが……。 |
| 39 | 黒髪の せつなき思い はるかなる | 小林伸雄 | 豊かな黒髪の頃の、甘酸っぱい思いが漂ってくるのでしょうか。 |
| 41 | 幹事会 予想たがわず 酒宴会 | 保科尠 | そうなんです。なにせ”爛司”が居るもんですから。これが潤滑油。 |
| 42 | ヨイショで座り ドッコイショと立って アツツツ | 松本勝威 | いやぁ～、足腰の動きがギクシャクで……。お前もか？老人力がつきましたなあ。 |
| 43 | まだ若い 気力と体力の 維持が大事だよ | 新井誠司 | そうですね、まずは気持ちを若く持たないと。年寄りの冷や水大いに結構。 |
| 44 | おいおまえ あれ、これ、それは あいことば | 小林伸雄 | おいあれくれ、これ？あれだよ、これ？それ？……。 |
| 45 | 弥彦山 学帽懐かし 電波塔 | 小宮山久治 | あれは1年生の時だったかな、バス旅行だった、懐かしいねアルバムを開いたよ。 |
| 47 | お弥彦に つどう仲間の 絆かな | 保科尠 | 同級会出席率、50%/30代、40%/40代、30%/50代、20%/60代(全国平均)。E36/47%は異常？ |
| 48 | 歳重ね 卒時の望み 成か否か | 小幡隆男 | いろいろと、辛甘や意気込みなんぞもあつたけど、結局俺の人生は？ |
| 49 | 万歩計 7、80は 鼻垂れ小僧 | 小宮山久治 | 古希・傘寿は鼻垂れ小僧、万歩計付けて元気に過ごそうよ、と言う励ましの句かな。 |
| 50 | 斯(か)くなれば 華麗に加齢を 重ねべし | 勝沼正敬 | ここまで来たんだ、今までをデリートして華麗にテイクオフを演出しよう！ |